

令和3年度 第8回 邑南町教育委員会 会議録

1. 招集期日 令和3年8月2日(月)
招集場所 元気館 視聴覚室
2. 出席委員 土居教育長、森岡委員、服部委員、武田委員
欠席 井上委員
3. 説明のため出席を求めた者及び参加者
高瀬学校教育課長、三上生涯学習課長
4. 会議録に署名すべき委員の指名
武田委員、服部委員

土居教育長：

日程第1

これより、第8回の邑南町教育委員会を開催いたします。

(9:00～)

日程第2

今日の教育委員会の会議録署名は、武田委員さん、服部委員さんをお願いをいたします。

日程第3 議決事項

議案第28号 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検評価について(継続審議) お願いをいたします。事務局お願いします。

高瀬学校教育課長：

この前の時説明をさせてもらいましたがもう一度説明をさせてもらった方がよろしいでしょうか。あの時は武田委員さんがおられなかったのです。

武田委員：

資料は拝見しているんで大丈夫です。

土居教育長：

それでは割愛して、よろしく申し上げます。

高瀬学校教育課長：

前回のところで見え消しがありましたものを、すべて修正の赤字の部分だけという形で変更させてもらっております。中身については事前に配らせてもらいましたし、武田委員さんのほうにも送らせてもらいました。井上委員さんの方にも

送らせてもらって、この点検評価についてのご意見等伺っておりましたが、井上委員さんの方から特にはご意見等ございませんでしたので、そのことをご報告させていただければと思います。

森岡委員：

1 ページから 2 ページずっとやっていけば。

土居教育長：

追加で訂正とかすることは、ご意見を再度伺っていくということでもよろしいでしょうか。それでは初めの教育委員会の開催というのが、1 ページから 6 ページまでありますがここについてご意見、訂正、修正がありましたらお願いします。

服部委員：

修正のしようがないので。

土居教育長：

ここはよろしいでしょうか。れでは原文通りということ。それから教育委員の諸活動ということから、1 3 ページまでの委員会の所見ということを含めて 1 3 ページまで改めたいところ、修正したいところがありましたらお願いします。

高瀬学校教育課長：

前回の時に、8 ページにあります教育委員会の所見について中段のところの表現を、今赤字のように変更させてもらっております。

土居教育長：

これはご意見があったとうことで。

高瀬学校教育課長：

はい。

土居教育長：

8 ページの 5 の上から 7 行目、このように改めているということ。

高瀬学校教育課長：

それと 10 ページの (5) の新型コロナウイルス感染症拡大への対応部分について、コロナ関連が二つの項目がありましたので、こちら (5) にまとめて、中ポツのところ三つほどまとめたものを追加するような形でこういうふうの一つにまとめてあります。前回のご意見伺いました中で。

土居教育長：

取組とかなんかについては、ポツで示したということで、ハンドル交換のこと、あるいは就学援助のこと、おおなんケーブルテレビの補助のこと3点をポツで示したということです。

森岡委員：

この間もらったこれとこれページがリンクしませんね。

高瀬学校教育課長：

若干ずれています。それと点検評価の方がちょっとずれております。極力ページ数はずらさないようにしたつもりではあったんですが。

武田委員：

前のページなんですけど、学校訪問の日にちに行った学校が記憶と違う気がするんですが。

高瀬学校教育課長：

令和2年の分ですので。

武田委員：

そういうことですか。失礼しました。じゃ日にちが、26と30がずれているのは大丈夫なんですか。開催日と。行った内容は去年のものですね。

高瀬学校教育課長：

はい。

土居教育長：

学校訪問の内容のところが6月26日になっているのを30日に訂正をする。

高瀬学校教育課長：

そこは日にちを確認させて下さい。

服部委員：

どっちが違う。

土居教育長：

13ページまでについては他に、修正点はございませんでしょうか。よろしい

でしょうか。

森岡委員：

コロナウイルス感染対策拡大への対応のところ、最初の7、GIGAスクールの、これ6になってますよね。

土居教育長：

まとめたので、コロナ対策、対応は。

森岡委員：

この中で、前倒しして整備されました。また合わせて学校のネットワークについても整備されましたとなっておりますよね。これ整備しましたではないか、教育委員会が主体なら。

高瀬学校教育課長：

そうです。

森岡委員：

これだとうちがやったことじゃないことになるよね。うちが評価することがない。

もう一個いいですか。公民館のあり方の7番ですね、コロナ禍で公民館が最も大切にしてきた「集う」ことの事業ができにくい状況でしたが集えなくても繋がっていくことの手法やICTを活用した活動につなげてきましたとあって、元々のものをみますと、また、ICTリテラシー解決と高齢者を中心としたスマホやタブレット講座を開催したり、率先してリモートによる学びの場のWeb会議を取り入れ誰一人取り残さない学びの場の環境作りに努めましたになっただけ、なんかすごい過大評価自分らでしとるんじゃないかと思ったんですよ。実際そんなことはしたんですかね。一人も残さない学びの場の環境づくりに努めたという。

服部委員：

井原公民館では、スマホの使い方とか。

森岡委員：

そりゃあ一部ですわね、全体でそんなことは多分ないと思うんで、なんかえらいこと過大評価だなあと思ったんですよ。

土居教育長：

努めたといえば努めたという。十分成果は上がらない。一年目なんで、だけどそういうことを試みたというぐらい。

森岡委員：

なんかちょっと、その前段がすごいんでね、誰一人取り残さない学びの場をとなってくると、邑南町全体ですよ。そういうことを努めたかという、それはちょっと疑問があるし、教育委員が評価するなら、個人的にはこんな評価ようせんなと思って。

武田委員：

表現として誰一人取り残さない学びの場を目指した環境作りに努めましたとすると。

森岡委員：

まあそれならね。

服部委員：

努めました、目指しましたぐらいで。

森岡委員：

それだったらあまり過大評価にはならん。

服部委員：

誰一人取り残さない学び、取り残さないっていう言葉はどこかにありますよね。

森岡委員：

もういっぱいあるよ今は。

土居教育長：

じゃあそういう表現にあらためて。目指したという、試みたということで。13ページまではよろしいでしょうか。

服部委員：

この前の時に、折角やられたので、ジェンダーの言葉をどっか入れたらどうって言ったんですが、入ってないけども、いいといえばいいですが。心のバリアフリーの中に入るといえば入るんだけども。

三上生涯学習課長：

服部委員さん言われたようにトイレのこと調べたんですが、元年度の方での取り組みでありまして。

服部委員：

それはそれで結構です。

森岡委員：

トイレの色は去年やったんですか。

三上生涯学習課長：

元年度にやりました。

トイレを改修した年に。

森岡委員：

あの時かいね。

土居教育長：

あのトイレの戸を、丸いものに。

森岡委員：

あの時あのみな古いのを。

三上生涯学習課長：

はい。

服部委員：

みなが気が付かんかっただけで。

森岡委員：

たまたま、今ワクチン接種の補助員でここに受付とるんですよ。そうすると、何人もの男性の人がね、男のトイレどこですかと。向こうの旗の向こう側にありますよと言うんだけど、青って見てしまって入ったら違うぞとなる。もう思い込みなんですね。女性の方も逆にいらっしゃる。やっぱり皆さんこの。

服部委員：

なんかね一人一人あれですからね。

森岡委員：

ここを使ってない人がいっぱい来られるじゃないですか、ワクチンなんかで。中には初めて来たって人がいらっしゃる、そういうふうなトイレの話を何人も聞いた。中にはなんでか知らんけど色が違うと、トイレを使ってもいいんですかと。それはやっぱりね、うちはそれをやるというんだけえ、今からで啓発をしていかにゃあいけんよね、それが教育委員会の責任になってきます。

土居教育長：

それじゃあ点検・評価表に入って、学校教育が点検・評価の12まで、この点検・評価1から12までちょっと長いですが、ここでご意見をいただきたいと思います。

服部委員：

これ同じ評価でも継続のところは改善し継続と書いてあるのと、ただ継続と書いてあるのがあるんですが、これは9なら改善し、10なら。

高瀬学校教育課長：

9は改善し継続にしました。

服部委員：

そういうことですね。

土居教育長：

総合評価が、9以下。

高瀬学校教育課長：

あくまでも10点満点のところでの部分なんで、9点については全て改善しに。

土居教育長：

9以下であれば改善しということに、10であれば継続と。

森岡委員：

評価3のところの課題のところの基礎学力の向上・定着及び学習意欲の云々があるんですけど、新型コロナウイルスの感染症の影響で登録者が半減した。しかし、地域の大人から肯定的なことばがけを受け参加者の満足度は高いとあるんですけど、なんかここちょっと個人的には意味不明だったんですけど。

土居教育長：

子どもが、指導してもらっている大人、指導者から「頑張ってるね」とか「よくできたよ」とかというような言葉かけを貰ったんで、人数は少なかったけども満足度は高まったという意味です。地域の大人というのを指導スタッフというのに変えるとわかり易い。よろしいですか。

森岡委員：

はい今のところわかりました。

服部委員：

たぶん誤植かなんかでしょうけど、真ん中のところのキラキラサポート事業ではの、でに、斜線が入るとるんですが。

高瀬学校教育課長：

失礼しました。

森岡委員：

その下のところの赤なんだけど、今のところですね、配置を考える上でチェックリストを配付したが使用状況等把握し、必要に応じて修正していく必要があるとなつとるんですけど、チェックリストを配ったりしとるけども教育員会では使用状況の把握をしていないということですか。

高瀬学校教育課長：

把握はしてはおりますが、使われ方についてもきっちりと検証評価があまりなされてなかったというふうなところもありましたので、あと中身的なところで、ちょっと突貫工事でチェックリストを作って、それをもってキラサポの配置の方のために作ったいうのもあるんですけど、内容的にはもうちょっとここに書いてあるように修正する部分もあるのかなあという感じで書いてあります。

土居教育長：

学校間によってだれに支援を行うかというところが、ばらつきがあるので、あつてはいけないということで、標準化をしようということでチェックリストを作ったという。だけどそこを修正する必要があるという、そういう課題ということですね。

森岡委員：

はい。

土居教育長：

よろしいでしょうか。他の委員さん、学校教育についてはよろしいでしょうか。

教育委員：

はい。

土居教育長：

それでは点検・評価の13から生涯学習課になりますので。

森岡委員：

もう一つすみません。点検評価の9のところなんですけど、一か所のね、真ん中の課題、学校の課題がここですます調になっとるんですよここが。

高瀬学校教育課長：

はい。

森岡委員：

ここだけなんで、である調に直したほうがいい。

高瀬学校教育課長：

わかりました。

土居教育長：

それでは、社会教育の13から24までにしましょうか。

高瀬学校教育課長：

すみません、その前に点検・評価26の出前講座ですが改善しという言葉が付け忘れておりましたので。総合評価のですね、点検・評価26のですね①出前講座。

土居教育長：

出前講座、施策6学び合いによる豊かな地域づくりの①出前講座は9なんで、改善してというところを改善し継続という、改善しを入れてください。それでは13から24まで図書館教育のところまでお願いします。

森岡委員：

点検・評価13のですね、研修会の開催というところなんですけど、このところがあんまりよく意味が、計画だと実施目標を教育を媒体とした地域コミュニ

ティ再生のための研修会を実施するという事だったんですけど、これを見ると防災ヘリかなんかの事になった。出羽公民館だけやってる。

土居教育長：

これは、地域学校の先進地視察を出羽公民館で。

三上生涯学習課長：

このわんぱく学校のこの会の子ども学校に、先進地視察をしようということで進めていたんですが。

森岡委員：

開催直前になり防災ヘリの運営側より都合により中止を告げられたと。

三上生涯学習課長：

ヘリが飛べなく。

土居教育長：

ヘリが入ってきたんか。

三上生涯学習課長：

直前、あの。

森岡委員：

なんかよう意味が。それがなんか研修目標に、研修とこれにあうんかなあと
思って、気がしたんですけど。ひょっとしてもし、この防災ヘリかわからん
ですけど、実は私は出羽自治会の防災委員長だったので、ヘリを呼んで防災訓練を
やったことがあるんですよ。直前にヘリが来れなくて、キャンセルになったん
です。そのことをひょっとして実績の中にあげとるんかなと思ったんだけど、それ
はないよなあとってからこれを。

土居教育長：

ヘリが入るということで。

森岡委員：

なんのこの先進地視察とヘリの関係が。

土居教育長：

ヘリが入るということで中止をしたということ。

森岡委員：

それはない、へりが入るのは旅行村だから。

三上生涯学習課長：

要請があった。

森岡委員：

これを見るとね、防災へりの運営側の都合より中止を告げられということは、運営側の都合よりいうことは、運営側がなんかしとったということがあった。研修会として、これがなんかよう意味がわからん。

三上生涯学習課長：

運営側からのキャンセルが入ったことは確かなんですけど。

森岡委員：

それは要するに防災へり来ませんということでしょ。

三上生涯学習課長：

はい。

森岡委員：

防災へり来ませんってなったのは、出羽自治会防災委員会会長なんで私が、やったその日が急遽飛べなくなって、ドタキャンがあった。その時は子どもも呼ぼうやとか、でやって公民館も一緒にやったんだけど、防災訓練ということで地域の。それかなあと思ったりも、それだと絶対これおかしい。おかしいというかあわんよなと思いながら、ちょっとこれ評価を確認してやって。

土居教育長：

確認をして文章を。

森岡委員：

それでないと研修会の内容がね、子育て及び学校、家庭、地域にわかるように明確に示し、ふるさと全体で子ども達を育むという位置づけの醸成をはかることが内容で研修の。これ違うかな、それであれば、この相乗りをしてもかまわないんだけど、それがこの研修だとちょっと全然違うなという気がした。あとそれをちょっと。たまたま自分が関わってたんで、防災へりを読んでみて、というのが事実なんで。

土居教育長：

評価16と17の総合評価の⑥、学習支援者の確保と育成のところが総合評価が9.5になっている。これは、継続じゃない。

高瀬学校教育課長：

思いとしては、10に満たない分についてはすべて改善し継続かと。

土居教育長：

10未満は、すべて改善し継続。それならわかる。

森岡委員：

点検・評価14のところの一番上の総合点検・評価なんですけど、赤で書いてあるところで、地域で子育てを行う意識は高めることができたとその前段は検討協議をしながらとあるんですけど、それで、点検・評価10でいいのかいう問題もあって、もう一つ、その下の主な内容のところでは上が10だからそうなんでしょうけど、オール10ですよ。オール10だけどこれほとんどコロナコロナで何もしていないという感じで書いて、10になってるんで、ひょっとして点検・評価の仕方って自身が、10とか9とか8とか付けることが本当にいいのかなあと感じがここでちょっとしたんで。全然やってないんだけど、頑張ったよ、けどそうだよならそう。ある意味点検評価実施をどうするかっていうのがかかってくる。

高瀬学校教育課長：

確かにおっしゃるようにコロナのところでは中止だったり、延期だったりというのがありますが、そのコロナ以外のところでもし、こういったことをやってないというのであればもちろん、点検・評価の10というよりは下がるというのはだと思えます。コロナでもなかなか開催できんのはそれなりの努力した分のあたりの評価してもらえばなあと思ひまして。

三上生涯学習課長：

主な事業内容の2段目と3段目については実施をしております。

森岡委員：

ちょっと課題の評価の仕方がどうかと思ったんで。もう一つ。その下に株式というのがありますね、株式会社モンベルとの協定を生かした事業を展開する。社会教育云々なんですけど、そのどんな事業の展開を。モンベルというと恐らく山とあとトレッキングとカヌーと、その会社の売りがですよ。その辺ですよ。

そういうことをモンベルと提携したことによってうちでやったんだとか、どうなかなと思いつながら。で、9.7から10に変わってるんで。それは今次のページが一番上もそうなんですけど、この場合はモンベルと協定を結んだことで、自然体験活動をより活発に行うことができたと答弁してるんですけど、モンベルとの提携によってどんな今までと違う、どんな自然体験をしたのかなあとか、今までよりこういうことで活発にしたということがあると思うんですけど、それが何なのかなあと質問で聞いてみるんですけど。

三上生涯学習課長：

はい、ちょっと。

森岡委員：

たまたまモンベルって民間会社と提携したっていうのが何かに載ったんで、広報だったかな、かなりそのう、頑張った内容をするんだろうねと関心が人によってあると思うんですけど、実際何をやったんですか。

土居教育長：

チェックをして。

三上生涯学習課長：

はい。

森岡委員：

点検・評価17と19でダブるかもわからん、19の、17ですね、17の点検・評価のところは公民館だよりは、邑南町ホームページで閲覧できるようになり云々なんですけど、それはそれでええんです。ただ恐らくホームページの中に公民館活動をずっと上げられるようになっていきますよね。全然それをかまってる、今週こんなことをどこどこ公民館これをやりましたっていう情報が全然ない、使ってる。というのは私が見たんじゃないんですけど、この前話をした人で、折角あるのに全然更新も何にもしてないよね、何も入ってないよねという話を数日前に聞いたんですよ。だけどここにばっと入って、8が9.5にぐっと評価してるんですよ。あれ全然使ってるんじゃないかと情報を。それは次の19の上のところの各公民館ホームページの更新や云々というのがありますよね、課題のところ。で、その中で本当にやってるのというのがちょっとあって。自分が見たんじゃないんで、聞いただけなんで、たまたまこれ読みながらそのこと思ったんで、もしやってないんなら、そういうふうに関心を持つとられる方もいらっしゃるんで中には。我々みたいな紙媒体でしか物を考えるじゃなくて常にああいう中から情報をひらう時には、わかっているらっしゃる。もしそうであるとするならば、

やられた方がいいよな。

土居教育長：

17と19のところを正確さに欠けるんで、そこをチェックをしてみてください。他よろしいでしょうか。

森岡委員：

ここへ私、よう読み込まないのかもしれないですけど、点検・評価19の中で、地域づくりへの支援というところがありますよね。点検・評価19の4段目です。地域づくりへの支援、その中で赤で書いてある地区別戦略は新たな事業としてスタートしたが、公民館としても地域の特性を含めた、3月の社会教育フォーラムで公民館と地域の関係性を明確にしたって書いてあるんですよ。これどういうことかなあとって。今他じゃないんですけど、地区別戦略をどこもやってる、公民館いかに関わっていくかということが恐らく議論を公民館ではされとると思う。この前庁長部局の方のアンケートを見ると正に公民館ホント必要だなあみたいな設問の仕方の、アンケートもあったんですけど。そういうところからこの辺の部分は大事なんじゃないかと、今後いろんな議論武装をするのにですね。公民館と地域との関係を明確化したとあるのでこれはどういうことかなあとって。

三上生涯学習課長：

地域というよりか、この前の社会教育フォーラムでは地区別戦略との関係をそれぞれの公民館で明確化したといいますか、より以上関係性をもって、進めて行こうということになりました。中には関係を持っていない公民館もあったんですが。

土居教育長：

地域というよりは、地区別戦略の方がいいんじゃないかね。元々学びと交流で、地区別戦略との関係性は明確にしていたけども、より明確にしたという。地域というのを地区別戦略というふうに改めて。

三上生涯学習課長：

はい。

森岡委員：

そうすると、地域での関係になってくる。

土居教育長：

他、ございませんでしょうか。

森岡委員：

点検・評価 2 3 のところなんですけど、2 3 のところに一番下段のところは赤で書いてあるんですけど、社会教育主事の関係だと思うんですが、これ社会教育士は、1 1 名になってますよね、これは間違いじゃ、社会教育主事ですよ。

土居教育長：

社会教育士でしょう。

森岡委員：

士でええんですか。社会教育士っていうのはなんかあれでしょう。称号みたいなものでしょう。社会教育士というのは、ある意味称号みたいなもので、我々社会教育主事というのは規則の中に明確化にしていますよね。その社会教育主事が 1 1 人おるんじゃないんですか。社会教育士はいつでもええんじゃないですか。

武田委員：

新しくできたんじゃないかな。

森岡委員：

社会教育士っていうのはね、別にその。

土居教育長：

社会教育主事の上に何単位を取ると、教育委員会におらんと社会教育主事は資格がないというか、有資格者にはならないんだけど、社会教育士はどこにおいても社会教育が可能だという。

森岡委員：

わずか数単位なんで称号みたいなものでしょう。

三上生涯学習課長：

主事を取って。

森岡委員：

これは社会教育主事じゃない、社会教育士が 1 1 人おる。

三上生涯学習課長：

評価の 1 6 の中段のところにある、社会教育主事の育成というところで、社会

教育士が 8 名、社会教育主事が 1 1 名。

森岡委員：

やっぱり社会教育主事ですね。主事が 1 1 名でしょう。

三上生涯学習課長：

はい。

土居教育長：

社会教育士が 8 名。

森岡委員：

社会教育主事ならわかるけど。

土居教育長：

含むという意味か。社会教育士が 8 名で、社会教育主事が 1 1 名という。1 1 名の中に社会教育士が 8 名おるという意味合いか。

三上生涯学習課長：

はい。

土居教育長：

社会教育士は、現在教育委員会におらんでも資格は取れるよね。ちょっと確認をしてみてください。

三上生涯学習課長：

はい。

武田委員：

いろんなところで活躍する人みたいな、主旨だった気がします社会教育士が。

森岡委員：

社会教育主事は、教育委員会の中じゃないですか、社会教育主事っていうのは社会教育法だったですね。

土居教育長：

そうです。

森岡委員：

だから社会教育士じゃないでしょう。

土居教育長：

社会教育士はない。教育委員会はなれても。

森岡委員：

社会教育士なんかはおるじゃないですか。前そうだったよ言うて、社会教育やった時に、社会教育士なんなん言うて、俺社会教育士なんだよってそれぐらいのこと。

土居教育長：

他の課に行っても社会教育主事、まあ社会教育士という肩書で活動できるという、そういう意味なんじゃない。他の課に行ったときに、社会教育的な行政を目指すことが可能だという意味で。

森岡委員：

点検・評価の24のところの下の方なんですけど、実施状況の一番下20歳のブックスタートのちょっと前。20歳のブックスタート事業がありますよね。そのこのところの上にコロナ禍で臨時休館云々というのがありますよね。約1か月、前もらった分の翻訳の訳だったでしょ。直ってないでしょ。

土居教育長：

直ってない。

三上生涯学習課長：

すみません。

森岡委員：

その2行下、一同に会してとなっている。この同は、何とか堂の堂。建物のじゃないんですか。それとも別な意味でなんか。こういう書き方せんですよ。あってもいいような表現の仕方。

土居教育長：

まあ、集まってという。

森岡委員：

正しい言葉ならええんだけど、一同という。

土居教育長：

続いて点検・評価の24から最後まで。

森岡委員：

武田君一同はせやあないん、使える。

武田委員：

一同は、お堂の方が、場所、建物らしくって、同じにしたら集団が集まってという。

森岡委員：

で、使える。

武田委員：

一応使えるということ。でも、お堂の方が一般みたいですね。難しいですね。

服部委員：

一同礼とかいう時には。

武田委員：

同じにしますね。

土居教育長：

同じ言うことなので。

武田委員：

だから、会場として集まる方はお堂の方がいいかもしれない。

三上生涯学習課長：

職員研修いうことに。

土居教育長：

他よろしいでしょうか。

武田委員：

すごい細かいことなんであれなんですけど、数字の付け方がちょっと気になってですね、実質三段階評価みたいになっていますよね。8、9、10で。そうな

ると8のところでは若干気になるなと思って、なんかあるんですかね理由。理由と
いうか8になるという。実施できないのところも意外と高くついたり、実施し
てるけど8とかいうところもあったりして、どう考えたらいいか。

森岡委員：

点検・評価は数字で評価をするのは非常に分かりやすいんだけど、なかなかこ
うなると難しくある。

武田委員：

難しいですね。なんか整合性で。

森岡委員：

だから元々、特にコロナ禍とかなんかになってきてから。

武田委員：

ややこしいですね。

森岡委員：

ややこしいなあ。どっか、もうちょっと変えた方がええんかなと。

武田委員：

達成されたとみるのか。一か所どこか7があるんです、7が。この28のこ
ろですけど。行っていて、7になっているのはちょっと余計気になるというか。

服部委員：

昨年度の人数と比べて参加者だとか、減ったとったら、評価がちょっと、でもコ
ロナの中だから。

武田委員：

よけいわからないですね。またこれなんか今言っても、あれだなと思いつつ、
思っていたんですけど。それしょうがないかなと思う。

森岡委員：

今年はもうこれでやるしかないんだけど、来年に向けては、いっぺん評価のと
こね。

土居教育長：

なかなか外部評価者も、事業の中身がわからないところで、これでええかどう

か言うて白黒つけて下さいと言われても、なかなか難しいところはあるよね。

森岡委員：

突然来てこれで評価してくれと。

土居教育長：

我々教育委員でもなかなか事業のすべてがわかるとるわけじゃないので。

服部委員：

言われたのは、3回ぐらい人権同和教育のあれで来て、学校教育課と生涯教育課と合同として三つぐらいに分かれとるから、評価するのはみ易いかもしれんけど、外部から見る時には生涯学習課がやっても、学校教育課がやっても、実施したのがどこたらしいのはあまり関係なくて、その事業自体の評価だったらいいのだから、別に三つに分けなくても協力してやりましたみたいな感じで、一つの事業にしてもいいんじゃないかなというようなことは言ったんですけど。役場の方もそれいろいろとやり方があるんだらうから、3回ぐらい同じのが出てきて、同じのを読むと頭が混乱するというか、わかりにくくはなりますよね。この分はしょうがない、こういう事業があって、それに対してその評価をしたんだから。

森岡委員：

この中で、見られてもらって公民館によって偏りが結構あるなど感じたんですけど、もちろんそれはあるんですけど。例えば全館でやりましようやっていうのがあっても実際にこれを見ると4つぐらいしか上がってないとか、もあるんですよ。例えば人権問題なんか、全館1回やったんでしょうけど、これを見ると人権教育推進のところなんか井原公民館、田所、矢上、阿須那。現代的課題の講座でも各館1回以上やるようになってとるよね。これを見ると高原と矢上と井原、そういうのが言えばいっぱいあるなどと思って。それは全館が出来てなくて10なのか。

三上生涯学習課長：

人権教育については、最後のところの報告のところ、全館は開催はしておりますがここに載っているのが載せとるのが。

森岡委員：

これだけということ。

三上生涯学習課長：

はい。

森岡委員：

後点検・評価の21なんかの現代的課題講座、非常にすごい反響がありました。ここなんかは実施計画で全館やるってことになっていましたよね。

三上生涯学習課長：

はい、各公を1回以上。

森岡委員：

これが、高原とここに載つとるのは、矢上、井原。で、9を10に変えてますよね。そういうのはどうなんかなあということ。

武田委員：

すごい細かいことを言うと、その上が8とかっていう、根拠っていう。

三上生涯学習課長：

上は年1回から2回ということで、全館はあがってないので。

武田委員：

なるほど。

三上生涯学習課長：

逆に点数は上がってもいいかも。現代的なところは各公1回以上という目標に。

武田委員：

その辺難しいですね。回数で見るのか内容で見るのか。全館で。

森岡委員：

いや、これがある、で、もとにして、1個1個チェックは出来ないですけど。

武田委員：

最初立てたあの方。

森岡委員：

なんかを見るとそんなんがある。全館1回やりましょうという計画目標があって、たとえばこれ、現代的課題講座だと、去年9から10に上がってるけど、全館は。そういうふうなやり方です。

武田委員：

立てとられましたものね。それと併せて。難しいですね。

森岡委員：

全体、感想なんですけど、どこも良くやっとなると思うけど、なんかすごいがぼっと目立ったものが無い。阿須那の公民館が目立った感じがした。あこなんか頑張っとなるなと思って、いろいろやっとなるんだとかですけど。井原とね。

土居教育長：

例があがっとなる。

森岡委員：

井原か阿須那だけ。

土居教育長：

回数が多い。

森岡委員：

実際頑張ったなと思うんですよ。井原なんか今までに無いようなことやってみたりとか。阿須那もそうですね結構

服部委員：

1年間の事業内容も物凄く沢山あって、共同参画、平和、人権、成人学級とあって、そんな一つ一つの項目にあったその事業を計画するってどうしても一緒になって、もうちょっと単純化出来んものかなと思うんだけど、こういう事業がちゃんと計画がたっとなるんですものね。

森岡委員：

中にはあるんですよ。例えば高齢者教育なんかのところ、認知症予防教室とか書いてあるんですけど、基本的に公民館タッチはしてないんですよ。そりゃ社協がすごくやってますけど、そのへんとの関係で公民館は貸館だけなんですよね。それにその公民館として社会教育という立場からプログラミングに参加するということはまったく無い。でもまあ一応ここにあがっとなると、すごいねと思うんですけど。思っても我々はせん。そういうのは結構。相乗りをさせてもらいましたということ。

土居教育長：

でないと全部は網羅できないよね。度々にひとを集めるような感じでね。

森岡委員：

すごい項目がありますけど、実際それは公民館の事業展開なんでこれ、あるんだけど、公民館が主体に取り組んでるっていうのは半分もないかも。

土居教育長：

それはそれでええと思うんで。

森岡委員：

その代わり公民館が開設するにあたって、会場の調整をしたり、公民館が皆やっとする、そういうような支援がええんじゃないかなと思う。

土居教育長：

全部やっていたら毎日事業しとらにゃいけんようになる。準備から後片付けから。

服部委員：

あまり公民館主事さんに負担がいき過ぎても。

土居教育長：

実施計画を作る時は、出来る限り網羅したくなるよね。ここだけはもう高齢者学級ええと言う訳にはいかんところもあって、ほんならわしらんところは見切ったんかと言うけえ、どうしても網羅主義になりがちだよ。それは他の関係機関と連携をしながら上手にやり繰りせんと100%は無理ですよ。活動費そのものも潤沢にあるわけではないんで。よろしいでしょうか。

教育委員：

はい。

土居教育長：

最後まで言い落としたところがあれば。よろしいでしょうか。それじゃあご意見いただいたものは修正をして届けます。各教育委員さんに。

高瀬学校教育課長：

修正したのもですが、外部の評価委員さんに8月の10日に予定されてますので、どうしましよ意見聞いてから、先に届けた方がいいのであれば届けさせてもらいます。

土居教育長：

外部評価委員さんの点検表を作った時に、委員さん方にお配りをして、で外部評価を受けてからまたご意見を付け加えたものを委員さん方にお配りをするという流れでよろしいでしょうか。

教育委員：

了

土居教育長：

8月の10日に外部評価委員さんの評価会を開催をします。

以上で、第8回を終了します。

(～10:20)